

会 議 記 録		
会 議 の 名 称	公共交通対策特別委員会 (協議会)	会議場所 第3委員会室
		担当職員 鈴木智
日 時	令和元年6月17日(月曜日)	開 議 午後 2 時 45 分
		閉 議 午後 4 時 03 分
出席委員	◎福井 ○赤坂 田中 山本 三宅 奥野 石野	
出席者	川本京都タクシー(株)社長、宗口京都タクシー(株)営業部次長	
事務局出席者	山内事務局長、鈴木議事調査係長	
傍聴者	—	議員1名(小川)

## 会 議 の 概 要

1 4 : 4 5

[京都タクシー(株) 入室]

### 1 開議

[福井委員長 開議]

[福井委員長 あいさつ]

[京都タクシー(株) 川本社長 あいさつ]

[出席者 自己紹介]

### 2 案件

#### (1) タクシー事業者との意見交換

[京都タクシー(株) 川本社長、宗口営業部次長 説明]

1 5 : 2 2

[意見交換]

<赤坂副委員長>

自家用の運送はできるだけ早く実施しないと間に合わない。私は広聴部会長として亀岡市内の地域を回り、意見を聞いてきた。今後、山間部のバス運行はやめられると思う。夜間の緊急用デマンドの話は、今後絶対に出てくる。議員はどのように動いていけばよいのか教えてほしい。

<京都タクシー(株) 社長>

旧京都交通が倒産した時は栗山市長であった。当時は、とにかくバスを運行しなければならないということであった。そこで、南部は京阪バスが引き受けられ、北部は日本交通が引き受けられた。そして、市としてはコミュニティバス、ふるさとバスに対して手厚い予算をつけられた。篠町の夕日ヶ丘も造成され、バスを走らせる要望が出てくる等、ますます市の財政支出が増えた。桂川市長は、これに対する限界を認識されており、なんとかしなければならないという思いを持たれている。私もその思いを感じており、できる限りお手伝いしたい。私たちタクシー事業者は小回りが利き、無線装置もある。コミュニティバス等はバス停から乗っていただくが、自宅からバス停まで行くことに問題がある高齢者がいらっしゃるという声を非常

によく聞く。順番に物事を積み上げていき、ハレーションが起こらない体制を固めていきたい。かめおかアッシーの業務を来年の秋から京都タクシーが引き継ぎ、運営することとしている。この考えについては、平成26年に市の公共交通の担当課にお伝えした。我々としてはできることをやっていきたいと考えている。夜間の運転手の確保にも努めているが、JR亀岡駅には利用客に並んでいただいている状況がある。少しでも前倒しして実施できるように考えている。

<赤坂副委員長>

明日、明後日にすぐにやってほしいということではないが、10年後には高齢者施設も大変な状況になっていると思う。亀岡市としては、率先して考えていくべきことであり、できるだけ早く実施できるようこの委員会で考えていきたい。再度ここに来ていただき、いろいろと話をしていきたい。

<福井委員長>

タクシー事業者としてのノウハウを教えてくださいということである。

<三宅委員>

ユニバーサルタクシーの導入計画はどうなっているのか。

<京都タクシー(株)社長>

車椅子を乗せられる車両は6台あり、基本的には日産バネットを使用している。タクシー専用のジャパンタクシーは3台ある。今年10月に運賃改定を実施すると、小型と中型の区分がなくなるので、普通車だけとなる。今後は、いろいろな車両を導入していきたいと考えているが、ジャパンタクシーは横乗りであり、手間がかかり実用的ではないので、バネットを基本に考えている。これからは、ますます需要が増えてくると考えており、ユニバーサルタクシーと福祉タクシーについては、お客様がより使いやすいようにしていきたい。福祉タクシーも負担にならないように増強していきたい。また、国の情報も入るので、あわせて議員にもご指導いただければと考えている。

<山本委員>

かめおかアッシーは介護認定を受けられている方等が利用されると思うが、どのようにしていくのか。

<京都タクシー(株)社長>

かめおかアッシーは、登録された利用者とボランティアドライバーにより運営されている。京都タクシー(株)では、これまでどおり運営していきたいと考えている。このことについて、当社では管理職に1年以上前から言ってきたが、公の場で私から申し上げるのは今日が初めてであり、退路を断って進めていきたいと考えている。運営についてはこれから決めていく。これまでよりも利用しやすいようにしていきたい。

<京都タクシー(株)営業部次長>

デマンドタクシーとはいうものの、路線バスであるため、路線バスの免許を取得しないといけないものである。八木町地区で実施するにあたり、新たに乗合事業というメニューを取得したものである。また、かめおかアッシーは会員を限定して、通院や買い物のために送迎してきたものである。このため、タクシー事業との垣根はないと考えられている。当社としてはいろいろなメニューを持っているため、これらを一緒に考えていこうとするものである。

<三宅委員>

タクシー業界がもうかっているのであれば、この事業はよいと言えるかもしれないが、現実的にはそうではない。タクシードライバーの平均年齢は61.3歳であり、

京都市内より0.5歳高くなっている。80歳以上が4%以上おられるので、人間的に厳しいということがわかる。料金も苦渋の選択で値上げされており、市としても補助金も含め考えていく必要があると考える。

<福井委員長>

過去には京都タクシー（株）から、路線バスをやめて、デマンドバスにすると安くなるということについて提案された経過もある。そのことも一緒に考えていかなければならない。今後、タクシーについては公共交通の1つとして、どのようにまちの中を結んでいけばよいのかを考える重要なファクターとなる。

<京都タクシー（株）社長>

私が元気なうちに、いろいろなことの土台をつくりたいと考えている。時間はあまりないので、精力的に皆さんと意見交換に努めていきたい。亀岡に住みたい動機としては、水や野菜等いろいろあるが、移動するのに不便であるので、これをなんとか解消していきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

15 : 49

## （2）今後の委員会活動について

<福井委員長>

前回の委員会での意見をまとめている。石野委員は「亀岡市と似た山間地を持つ市に視察に行ってはどうか」、赤坂副委員長は「石野委員と同意見。山間地があり同規模の地域に行って勉強したい」、奥野委員は「丹波篠山市や京丹波町等に視察に行ってはどうか」、山本委員は「他市で実施されている所に行って調査したい」、田中委員は「第一交通（東京）のオンデマンド型乗合タクシーを研究してみたい」、三宅委員は「自治会が中心になって管理運営してもらうのが1つの方法だと考える」という意見であった。また、その他として「ふるさとバスの回数券は、買える冊数を増やした方がよい」「スクールバスの一般混乗可についてもしっかりと知ることが大事」という意見があった。今後は、調査・研究を実施していきたいと考えているが、各委員の意見を聞きたい。

<三宅委員>

乗合タクシー事例集の資料に記載されている、年度実績が高い自治体に視察に行きたいと考えている。

<赤坂副委員長>

亀岡の山間部の悩み等の意見を集めて、山間地のある自治体にその対策を聞きに行きたい。そのうえで、京都タクシー（株）と意見交換したい。

<福井委員長>

地域こん談会等での意見を集めてはどうかと考えている。

<奥野委員>

各市町では住民の意見を集約していると思うので、同じような人口動態で、山間地のある自治体に行き行って聞いてみたい。今からアンケートを取ることは必要ないと考ええる。

<山本委員>

把握した課題をどう解決していくかについて、他市に行き行って聞いてみたい。東別院町ではデマンドバスを週3日運行されているが、継続していくことが厳しくなっている。送迎はプロが行い、地域がサポートするのが本当は1番よいと考える。このようなことを視察できればと考える。

<福井委員長>

市民の意見の傾向を執行部から出してもらうこととする。そして、今後、どこに視察に行くのがよいかを考えていきたい。

<石野委員>

今日の資料に全国の事例が載っているので、各委員で目を通しておいてはどうか。

<三宅委員>

近場の現状を視察して、亀岡市版の仕組みをつくらなければならない。どこの自治体も悩んでいることである。

<福井委員長>

視察に行くことは可能であるのか。

<議事調査係長>

公用車で行ける範囲であれば可能である。また、近距離で日帰りであれば、予算の執行状況をみて可能な場合もあると考える。

<福井委員長>

亀岡の自治会単位の困りごとを把握されているので、それを出してもらうこととする。委員会としての方向性も示していきたいと思っているので、協力いただきたい。

<赤坂副委員長>

せめて2カ月に1回程度は開催していきたい。広聴部会としても意見を聞いてくる。誰もが年をとるので、今の中にしっかりと検討しておきたい。それまでに情報を集めて、委員会を運営していきたい。

<福井委員長>

資料等が収集できれば、委員会を開催していくこととする。

### 3 その他 (なし)

散会 16:03